だまされた狐

むかしむかし、ある山の麓にお寺があってな。とても知恵のある和尚さんがおったそうな。和尚さんには一つだけ困ったことがあったと。それは山から狐がときどき下りてきて、お寺へいたずらをしてゆくことだった。

これがまた、すばしこくてなかなかつかまえられなかったと。ある日のこと、いつものように狐がいたずらをしにやってきた。「こんどこそは逃がさないぞ」と和尚さんは箒を持って追いかけ回したが、やっぱりつかまえられない。やがて狐は、お寺の本堂へ逃げ込んだ、本堂の隅から隅まで探したがそれでもみつからなかったと。そのうち和尚さんは一〇体並んでいた仏様がいつの間にか一一体になっているのに気がついた。「さては狐だな」と思っても、あまりうまく化けているので、どれが狐やらさっぱり見当がつかなかったと。そこで和尚さんは考えたあげく「仏様一〇体、みな頭動く。動かぬものは狐であろう」と怒鳴った。すると仏様に化けていた狐は動かなくてはならないと思って首を振り始めたと。「これこそ狐だ」と、和尚さんは、とうとう狐をつかまえた。そして、お尻をピシャと一つたたき、二度といたずらをしないように言い聞かせて、山へ逃がしてやったとさ。

トッピンパラリのプー